

森林の大切さを伝える



子どもたちの心に届くように、わかりやすくお話をします。



左角材をナイフで少しづつ箸の形に削っていきます。
右焼きごてで好きな絵を描いたら、オリジナルのマイ箸の完成！

尾鷲市内のほとんどの小・中学校では、在校生が卒業生のために、ひのきシートでコサージュを作っています。「尾鷲ひのきを地元の子どもたちに知つてほしい」と、池田さんから学校に声をかけたことで始まり、この取組は10年以上続いています。

卒業生を思いながら、薄いひのきシートが破れないよう1枚ずつ丁寧に花びらを作っています。また1年後、自分の卒業式で在校生からコサージュをもらうと、作る大変さを経

験している分、感動も一層深まります。

最近はコサージュ作りだけでなく、尾鷲ひのきを使つた色々なクラフト体験を学校の授業で行うようになりました。そのなかのひとつに「マイ箸づくり」の授業があります。子どもたちはのこぎりやナイフを使って、自分の手にあつた長さの箸を作ります。

普段あまり使うことのない道具での作業ですが、慣れると上手に使いこなしています。お箸を完成させた子どもたちは、「持ち歩いて、外でご飯を食べるために花びらを作っています。また1年後、自分の卒業式で在校生からコサージュをもらうと、作る大変さを経

を感じてもらうだけでなく、自然のものを大切に扱うことも伝えることができます。また、クラフトの材料は主に間伐材を使用しており、池田さんは授業のなかで「伐つてはいけない木」「伐つてもいい木」「伐らなければいけない木」があるというお話をしています。

伐らなくてはいけない木というのには、間伐しなければいけない木のことです。間伐は残された木の成長を促すだけではなく、森林の健全な機能を生

み出していました。森林には土砂の流出や山崩れを防いだり、水を蓄えるなどの多面的機能があり、私たちの暮

らしを守ってくれているのです。

現在は国内産の木材の利用が減り、手入れ不足の森林が多くなっています。池田さんは授業を通して「伐らなければいけない木は、積極的に使うことが必要です。そして伐った木は最後まで大事に使ってあげよう」と子どもたちに伝えています。

伐つてはいけない木…「原生林」など

自然に生えている森林の中でもほとんど人間の手が入っていない森林。日本には屋久島などに原生林が残っています。

伐つてもいい木…「人工林」

木材の生産などを目的として、人間が苗木を植えて育てた森林。日本の人工林はスギ・ヒノキがほとんどです。

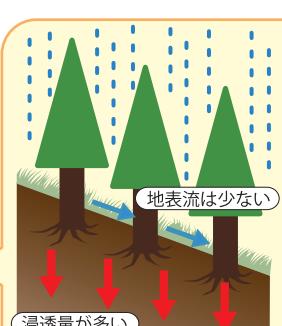
伐らなければいけない木…「間伐」

苗木を植え、木々が成長してくると、一部の木を間引いて(間伐)、残った木の成長を促します。このように伐られた木のことを間伐材といいます。

間伐した森林



地面にも日光が届き、下草が生え、栄養豊富な土壌となります。木の根は地中にしっかりと張っています。



地中にしっかりと張った根は、土砂の流出や山崩れを防ぎます。土壌はスポンジのように水を蓄え、洪水や湯水を防ぐ働きがあります。